



片柳中学校だより

片柳

第13号 令和8年3月26日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

次の一歩を踏み出すために

校長 佐久間 貴宏

春の訪れとともに、春のセンバツ高校野球が始まりました。皆さんは、試合をご覧になったでしょうか。埼玉県代表として花咲徳栄高校が出場し、活躍する姿を見ることができました。私が毎年注目してしまうのは、試合結果だけではありません。選手たちの鍛えられた身体。ユニフォームの上からでもはっきりと分かる太い脚。グラウンドに立ったときのたたずまい。そして、経験者であれば思わず息をのむ、バッターボックスに立った瞬間の雰囲気があります。いわゆる、「このバッターは打ちそうだ。」と思わせる雰囲気です。

野球をあまり知らない人には、なかなか出せない立ち姿の美しさ、スイングの美しさ、所作の美しさがあります。この領域に、16歳、17歳ほどの若者たちが到達していることに、私は毎年驚きを感じます。

野球に限らず、スポーツは単に身体を動かすだけのものではありません。頭で考え、判断し、行動する、正に「考えるスポーツ」です。例えば守備の際ですが、バッターの立ち姿、バットの構えの高さや軌道、打球方向の意識、さらには味方投手の配球を把握した上で、守備の選手はポジションや踏み出す一歩目を変えています。一球一球に思考を巡らせながら、グラウンドに立っているのです。

そこには、言葉を交わさなくても、相手の姿や動きから察知し、感じ取る力が必要です。このような力は、一朝一夕で身に付くものではありません。時間をかけて、成功と失敗を繰り返す中で積み重ねてきた、多様な経験の賜物です。

人は、経験や知識の量によって、見えている風景が変わっていくものだと感じます。私自身、10代の頃に見えていた風景と、40代の今とは同じものを見ても感じ方がまったく異なります。人生をより豊かに、多彩に生きていくためには、やはり学び続けることが不可欠なのだと思います。

最後に、野球から話を始めましたが、締めくくりはバスケットボールの話をしたしたいと思います。皆さんにとっては「過去の人物」かもしれませんが、私の世代のスーパースター、マイケル・ジョーダンです。バスケットボールの神様と言われていた人物です。ぜひ、YouTubeなどでそのプレーを見てみてください。今見ても驚愕するほどの、色あせないプレーの連続です。

彼は、こんな言葉を残しています。

「私はキャリアを通じて9000回以上のシュートを外し、300近い試合に敗れた。決勝シュートを任されながら、外したことも26回ある。人生で何度も何度も失敗してきた。だからこそ、私は成功したんだ。」

挫折や失敗など微塵も感じさせない活躍の裏に、これだけの失敗があったという事実は、私たちに大切なことを教えてくれます。誰しも、失敗を重ねながら生きています。分かれ道になるのは、そのときに諦めるのか、続けるのかではないでしょうか。

本日をもって、令和7年度が終了します。1年間の経験は、すでに皆さん一人一人の中に確かに積み重なっています。その経験を糧に、令和8年度もさらなる挑戦と成長の一年となることを願っています。